



ユーゲント・フィルハーモニカー
第8回定期演奏会

2014年3月21日(金・祝)

開演 19:00 (開場 18:00)

すみだトリフォニーホール 大ホール

G. マーラー 交響曲第9番 二長調

第1楽章 Andante comodo

第2楽章 Im Tempo eines gemächlichen Ländlers. Etwas täppisch und sehr derb

第3楽章 Rondo - Burleske / Allegro assai. Sehr trotzig

第4楽章 Adagio

※本公演は曲中に休憩はございません。

※開演中は携帯電話の電源をお切り下さい。

※他のお客様のご迷惑となりますので、演奏中のお席の移動はご遠慮ください。

代表挨拶

本日は、ユーゲント・フィルハーモニカー第8回定期演奏会にお越しいただき、誠にありがとうございます。

ユーゲントフィルが結成され8年目を迎えました。結成当時、学生が中心だったこのオーケストラですが、今では学生・社会人問わず、さまざまな個性を持ったプレイヤーが集まり、それぞれの価値観のもと日々の活動に臨んでおります。

今年度も、施設などで演奏させていただける機会を多くいただきました。また、新しい施設からも機会をいただき、音楽を通した新しいつながりを持つことができました。アマチュアオーケストラならではの団員個々人のさまざまな社会とのつながりを生かし、結成時から模索している「社会にオーケストラがどのように貢献していけるか」というテーマを実践していけるよう、これからも出会いやつながりを大切に活動していこうと考えております。

今回の演奏会では、前回に引き続き三河正典先生のご指導のもと、マーラーの交響曲第9番の練習に取り組んでまいりました。この、「死」をテーマにしているともいわれるマーラーの集大成を、比較的若い私たちが読み解くことは、矛盾しているようにも聞こえますが、あえて、私たちが作る「若さ」と「死」の交錯した表現をお楽しみいただければ幸いです。

最後になりましたが、今回ご指導いただいた三河先生をはじめ、演奏会にお力添えいただいた皆様、そしてご来場いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

指揮者紹介



三河 正典
MIKAWA Masanori

東京藝術大学作曲科および指揮科に学んだのち、パリ・エコール・ノルマル音楽院に留学、満場一致の首席で卒業。作曲を北村昭、佐藤眞、近藤譲、池野成の各氏に、指揮を小林研一郎、松尾葉子、秋山和慶、河地良智、ドミニク・ルイツツの各氏に師事。さらに、ムスティスラフ・ロストロポーヴィチの元で研鑽を積む。

第4回ブルー・ダニューブ国際オペラ指揮コンクール第4位、審査員特別賞受賞。ブルガス歌劇場（ブルガリア）にてヴェルディ作曲「椿姫」を指揮。

これまでに日本フィルハーモニー交響楽団、読売日本交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、京都市交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、群馬交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、サンクトペテルブルグ交響楽団、ロシア・トムスクフィルハーモニー交響楽団、サンクトペテルブルグ・カルペ・ディエム室内管弦楽団、パザルジク交響楽団（ブルガリア）、浙江交響楽団（中国）、小田原フィルハーモニー交響楽団、湘南弦楽合奏団、ヴォーチェ・ソナーレ（合唱団）など、国内外のオーケストラ、合唱団を指揮する他、新国立劇場、二期会をはじめとするオペラ公演や、サイトウキネンフェスティバル、アルゲリッチ音楽祭などで合唱指揮者、アシスタントコンダクターとしても活動している。

2005年～2007年、日本フィルハーモニー交響楽団指揮研究員。

現在、東京藝術大学および東京音楽大学、同大学院指揮科、声楽科（オペラ）講師を務め、後進の指導にもあたっている。

楽団紹介

Jugend Philharmoniker（ユーゲント・フィルハーモニカー）は、財団法人「日本青年館」の音楽行事（オーケストラ・フェスタ、全国高等学校選抜オーケストラ・ヨーロッパ公演、日本ユング・オーケストラ・ヨーロッパ公演）に参加したメンバーが中心となって2006年3月に創設されたオーケストラである。

選抜オーケストラが母体となっているため、メンバーは様々な大学オケ出身のプレイヤーが揃っている。現在、団員約80名を越えるオケにまで成長し、定期演奏会を中心とした活動の他に、福祉施設や普段生のオーケストラに触れる機会のない農村への訪問演奏、その他、行楽施設の各種イベントやテレビ番組での依頼演奏など幅広い活動を行っている。

音楽的に人間的に成熟した団体作りに励みながら、「アマチュア・オケだからできること（≠プロオケには出来ないこと）」を追求することを理念としている。

曲紹介

“交響曲第9番は彼の愛したすべてのもの、そして、この世界への、別れである———！
そして、彼の芸術、彼の人生、彼の音楽への別れ。”

上記は指揮者ウィレム・メンゲルベルクが自身の総譜に書き込んだ「標題」である。

数多くのマーラー研究者も認めているが、この交響曲の根底にあるものは「死」である事は間違いないようである。マーラーがこの曲を完成させたのは1910年4月、死去する1年前の事だった。初演に立ち会う事は出来なかった。

作曲している当時のマーラーの状況といえば、指揮者としてニューヨークとヨーロッパに生活を二分しなければならず、また心臓には深刻な病を抱えていた。1907年には愛娘のマリアを失い、さらには最愛の妻アルマとの確執など、精神的にも不安定な状態が続いていた。妻のアルマは「マーラーの思い出」という著書の中でこう語っている。

“子供の死とマーラーの病気のために悲嘆と不安に明け暮らしたこの年の夏は私たちがいっしょに過ごすことの出来た夏のなかで、もっとも辛く、もっとも惨めなものだった。どこへ遊びに行っても、どんな気晴らしをしようとしても、無駄だった。彼の救いは仕事だけだった。こうして《大地の歌》と《第9交響曲》のスケッチとの苦闘が続く。”

この交響曲はマーラーの書法が熟達の極みに達したもので、過去の作品のコラージュを数多く見受けられる事が出来る。例えば、第1楽章冒頭 2ndヴァイオリンが途切れ途切れに奏する2度下降の旋律はベートヴェンのピアノソナタ第26番《告別》のコラージュで、ベートーヴェンはそこに“Lebe wohl！”（ドイツ語で、心から愛する人への“さようなら”）という言葉を添えている。

そして第4楽章の最期、Adagissimo（きわめてゆったりと）の部分では自身の歌曲「亡き子を偲ぶ歌」の第4曲《子供達は、ちょっと出掛けただけなのだ》からの引用がされている。以下がその歌詞である。

《亡き子をしのぶ歌》62～69小節

「太陽の光の中で！ あの高いところでは天気はすばらしい！」



“あの子たちは、ほんの少し遠くにでかけただけなのだ
私たちもあの子たちを追い、高みへと行ってみよう
陽の光の中で！あの高いところはいいお天気だ！”

この交響曲は明るく柔らかく、そして長調で終わる。その暖かさが「別れ」の哀しさを一層際立たせている。まさにこれが、死を目前にしたマーラーがこの曲で表現した「別れ」と「死」であった。マーラーは曲の終わりに“ersterbend”、ドイツ語で死に絶えるように、と記した。

文責：山崎 愛

活動紹介

2013

- 3月23日 第7回定期演奏会 (すみだトリフォニーホール)
- 5月25日 訪問演奏 (デイ・ホーム上北沢)
- 6月1日 訪問演奏 (よこはま動物園ズーラシア)
- 6月8日 訪問演奏 (障害者支援施設きずなの里)
- 7月15日 訪問演奏 (デイ・ホーム弦巻)
- 8月4日 訪問演奏 (障害者支援施設きずなの里)
- 9月14-16日 第6回農村プロジェクト (長野県上田市武石)
訪問演奏 (老人保健施設いこい、特別養護老人ホームともしび)
- 11月23日 訪問演奏 (デイ・ホーム弦巻)
- 12月13日 訪問演奏 (イムス三芳総合病院)
- 12月21日 第5回室内楽演奏会 (団内) (大田区民センター音楽ホール)

2014

- 1月11-12日 合宿 (山中湖畔荘 ホテル清溪)
- 1月25日 訪問演奏 (大塚診療所)
- 2月16日 訪問演奏 (イムス三芳総合病院)
- 3月21日 第8回定期演奏会 (すみだトリフォニーホール)



▲ 長野県上田市 特別養護老人ホームともしびにて

依頼演奏

ユーゲント・フィルハーモニカーでは学校・老人ホームなどの福祉施設や、その他各種イベントなどでの依頼演奏を受け付けています。詳しくは当団 Web サイトをご覧ください。

Web サイト <http://jugend-phil.com/>

■ 次回演奏会のお知らせ

ユーゲント・フィルハーモニカー 第9回定期演奏会のお知らせ

2015年3月21日(土) 夜公演

於 すみだトリフォニーホール 大ホール

曲目未定

■後日ご案内をお送りしますので、アンケート用紙にご連絡先をご記入ください。

■お問い合わせ <http://jugend-phil.com/> (当団 Web サイト)

公式 Twitter アカウント

@jugend_phil : ユーゲント・フィルハーモニカー

facebook

Q ユーゲント



ユーゲント・フィルハーモニカー
音楽家・ミュージシャン/バンド